

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2020.6.5 No.381 東京・羽村平和委員会発行



グローバルホーク 横田基地に展開 5月30日から10月頃



5月25日、防衛省北関東防衛局より、「米空軍グローバルホークの横田飛行場への一時展開について」の情報提供がありました。

無人偵察機グローバルホークRQ-4Bは横田基地には、2017年に5月上旬から10月下旬まで5機が、2019年8月上旬から10月中旬まで4機が一時展開しており、今回は、5月30日から10月頃まで6機が一時展開するとしています。

初めは、三沢飛行場の滑走路が工事中だからとの理由でしたが、今回は、「現下の安全保障環境を踏まえると、この地域におけるISR（情報収集、警戒監視、偵察）活動のニーズは引き続き高く、グローバルホークの効果的な運用を最大限確保する観点で検討した結果、本年は横田飛行場に一時展開するもの。」としています。横田基地が大変な位置づけにされています。

6月4日現在、5機のグローバルホークが横田基地に着陸しています。

米海軍兵ら全員横田基地を発つ

地元が北関東防衛局に照会したところ、6月2日に、「移動制限をかけていた米海軍兵及び彼らのサポートスタッフは、既に全員が横田基地を発っています。」との情報がありました。

写真は、6月2日、横田基地に着陸し離陸した厚木基地の軽輸送機UC-12Fです。岩国基地の軽輸送機もきていました。米海軍兵らを輸送していたと見られるこれらの機体ですが、これが最後なのでしょうか。



第135回横田座り込みは6月21日！ コロナ、熱中症対策を



米空軍グローバルホークの横田飛行場への一時展開について

一時展開の経緯

- グアムを拠点に運用されている米空軍グローバルホークは、2013年(平成25年)10月の日米「2+2」共同発表において、2014年(平成26年)年から日本においてローテーションによる展開を行う旨記述。その後の日米協議を踏まえ、夏季における台風等悪天候の影響を回避し、より安定的な運用を確保するため、2014年(平成26年)年から三沢飛行場へ一時展開を開始。
- 本年(2020年(令和2年))は、米軍の運用事情を踏まえ、2017年(平成29年)、2019年(令和元年)に続き、横田飛行場へ一時展開する。これについては、現下の安全保障環境を踏まえると、この地域におけるISR(情報収集、警戒監視、偵察)活動のニーズは引き続き高く、グローバル・ホークの効果的な運用を最大限確保する観点で検討した結果、本年は横田飛行場へ一時展開するもの。

グローバルホークの概要

- 情報収集、警戒監視、偵察を任務とする米空軍保有の高高度滞空型無人偵察機
その特徴は、以下のとおり
 - ・画像等の情報収集を実施
 - ・攻撃能力なし
 - ・高度5万フィート(約1万5千m)以上で航行
 - ・無線通信及び衛星通信により地上から操縦

RQ-4B(グローバルホーク)



全幅	約40ft
全長	約15ft
全高	約5ft
滞空時間	約36時間
最大高度	約65,000ft

横田飛行場における一時展開の概要

- 展開元 : アンダーセン空軍基地(グアム)
- 展開機数等 : グローバルホーク×6機、人員数約80名
- 展開期間 : 2020年(令和2年)5月30日頃～同年10月頃までを予定。
- その他 : 騒音規制措置は可能な限り遵守する。

展開年・場所	展開期間
平成26年(2014年)三沢	平成26年5月下旬～平成26年10月上旬
平成27年(2015年)三沢	平成27年7月上旬～平成27年12月上旬
平成29年(2017年)横田	平成29年5月上旬～平成29年10月下旬
平成30年(2018年)三沢	平成30年6月上旬～平成30年10月上旬
令和元年(2019年)横田	令和元年8月上旬～令和元年10月中旬